

令和5年度 事業実績報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日)

学校法人 山脇服飾美術学院

事業報告について

平成17年4月1日施行の私立学校法の改正により、理事長が評議員会に対し、毎会計年度終了後2ヶ月以内に報告しなければならない事項として、「決算」の他、「事業実績の報告」が義務付けられているので、以下のとおり報告する。

学校法人の概要

学校法人の事業方針及びその結果をより正しくご理解いただくことを目的として、「法人の概要」「事業の概要」「財務の概要」に区分し、事業実績報告書を作成した。概要は以下のとおりである。

I. 法人の概要

1. 沿革

昭和初期	我が国、服飾界の先駆者として知られた山脇敏子が、洋裁手芸の技術を教える目的により、本学院の前身である「山脇洋裁学院」を東京銀座に開設。
1947. 11	東京・神田駿河台に「財団法人山脇服飾美術学院」創立。 初代理事長・学院長に山脇敏子、副学院長に長女原あやめ就任。
1951. 5	「学校法人山脇服飾美術学院」に組織変更。
1956. 2	千代田区九段（現在地）に、ピロティ様式の新校舎を建築し移転。
1960. 11	山脇敏子逝去。新理事長・学院長に原あやめ就任。
1964. 4	急速に進む社会・住環境の進歩に対応し、リビング・デザイン関連の学科を新設。
1974. 4	新校舎（現在の校舎）完成。 校名を「山脇美術学院」と改める。
1976. 6	学校教育法改正による専修学校制度発足に伴い、「専門学校山脇美術専門学院」となる。
1986. 7	学生のための山脇山荘を蓼科に開設。
1990. 9	原あやめ理事長・学院長退任。 新理事長・学院長に平島二郎就任。
1993. 4	ジュウリーアート科新設。4階建て新校舎増築。
1994. 4	男女共学となる。
1995. 4	スーパーCGアート科新設。
1996. 9	平島二郎理事長・学院長退任。 原あやめ理事長・学院長に再就任。

1998. 4	ビジュアルデザイン科、デジタルデザイン科、インテリアデザイン科、ジュウリーアート科の4科体制となる。
1999. 5	「山脇ギャラリー」オープン。
2000. 11	原あやめ学院長退任。新学院長に鈴木正治就任。
2004. 4	ビジュアルデザイン科とデジタルデザイン科がビジュアルデザイン科に統合。3科体制となる。
2005. 9	新学院長に細田直孝就任。
2006. 3	私立学校法の改正に伴い、学校法人寄附行為を変更。
2008. 8	原あやめ逝去。
2009. 5	新理事長に清水カツ子就任。
2009. 9	細田直孝学院長退任。新学院長に吉野眞二就任。
2009. 11	創立 80 周年記念行事挙行。
2011. 4	ビジュアルデザイン科、スペースデザイン科、ジュエリーデザイン科の3科3年制に変更。
2013. 1	スペースデザイン科卒業生への専門士の称号付与の認可。
2013. 3	吉野眞二学院長退任。 平成 25 年度より 3 年制に対応するため、教室内を全面改修。
2013. 4	新学院長に鈴木貞雄就任。
2014. 11	創立 85 周年記念行事挙行。
2016. 3	鈴木貞雄学院長退任。 平成 28 年度より、1 番教室を工房に、5 番教室をジュエリーデザイン科ホームルームに改修。
2016. 4	新学院長に横山芳明就任。
2017. 4	校名を「山脇美術専門学校」と改める。
2019. 11	創立 90 周年記念行事挙行。
2020. 4	新学校長に川上信昭就任。
2024. 3	ビジュアルデザイン科、スペースデザイン科、ジュエリーデザイン科が職業実践専門課程に認定。

2. 設置する課程・学科

美術専門課程

ビジュアルデザイン科、スペースデザイン科、ジュエリーデザイン科

3. 当該学科の学則定員（募集定員）、学生数及び就職状況

① 学則定員・入学者数の推移（単位 名）

学科名	学則定員	R6年度 募集定員	入学者数(各年度4.1現在)			
			R6年度	R5年度	R4年度	R3年度
ビジュアルデザイン	40	34	27	29	34	30
スペースデザイン	18	15	4	12	10	13
ジュエリーデザイン	15	15	14	15	14	15
合 計	73	64	45	56	58	58

② 在籍者数の推移（単位 名）

学科名	R5年度(R6.3.31現在)			R4年度(R5.3.31現在)			R3年度(R4.3.31現在)		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
ビジュアルデザイン	26	29(1)	28	31(1)	29	22	30	25	43
スペースデザイン	11	9	11	10	12(1)	14	13(1)	15	14
ジュエリーデザイン	14	13	13(1)	13	13	12	13	12	16
計	51	51(1)	52(1)	54(1)	54(1)	48	56(1)	52	73
合 計	154(2)			156(2)			181(1)		

() 内の数字は、休学している学生数

③ 就職希望・内定者数の推移（単位 名）

学科名	R5年度生(R6.3.31現在)			R4年度生(最終報告)			R3年度生(最終報告)		
	卒業	希望	内定	卒業	希望	内定	卒業	希望	内定
ビジュアルデザイン	28	24	17	22	21	16	43	38	36
スペースデザイン	11	10	10	14	14	14	14	13	13
ジュエリーデザイン	12	12	12	12	11	11	16	12	12
合 計	51	46	39	48	46	41	73	63	61

4. 法人組織

学校法人山脇服飾美術学院（以下「法人」という）は、教育基本法及び学校教育法に従い、私立専修学校（山脇美術専門学校）を設置し、学校教育を行うことを目的としている。

又、この法人はその収益を学校の経営に充てるため、不動産賃貸業及び貸駐車場業等の収益事業を行っている。

法人組織における役員及び役割は次のとおりである。

○理事会

法人の業務決定機関である。重要事項はすべて理事会の決裁を経なければならない。

構成は、山脇美術専門学校学校長、評議員のうちから評議員会において選任した者 3 人、前者 3 人が選任した者 2 人、学識経験者（学校長又は評議員である者を除く）のうち理事会において選任した者 1 人の計 7 名となっている。

○評議員会

法人の予算、借入金、基本財産の処分、寄附行為の変更等についての諮問機関である。

構成は山脇美術専門学校学校長、この法人の教職員で理事会において推薦された者のうちから評議員会において選任された者 3 名、この法人の設置する学校を卒業した者で年齢 25 年以上の者のうちから理事会において選任した者 4 名、理事のうちから理事の互選によって定められた者 3 名、学識経験者のうちから理事会において選任した者 4 名の計 15 名となっている。

○理事長

法人を代表し、その業務を総理する。
理事会、評議員会の招集者である。

○学校長

法人の設置する山脇美術専門学校の代表者であり、校務を統括し、所属教職員の監督者でもある。

5. 法人役員、評議員、教職員の概要

○法人役員

	現員	定員	任期
理事	7人	7人	4年
監事	2人	2人	4年

(令和 6 年 3 月 31 日 現在)

役員	氏名 (敬称省略)	就任/再任年月日	選任区分
理事長	清水カツ子	令和 3 年 4 月 1 日 : 再	第 6 条第 2 項
理事	清水カツ子	令和 3 年 4 月 1 日 : 再	第 7 条第 1 項第 2 号

理事	伊藤 美恵	令和3年4月1日：再	第7条第1項第2号
理事	越中谷直樹	令和3年4月1日：再	第7条第1項第2号
理事	寺尾 繁美	令和3年4月1日：再	第7条第1項第3号
理事	小野 浩一	令和3年4月1日：再	第7条第1項第3号
理事	杉山 尚子	令和3年4月1日：再	第7条第1項第4号
理事	川上 信昭	令和3年4月1日：再	第7条第1項第1号
監事	白土 英成	令和6年3月6日：再	第8条第1項
監事	奈良 道博	令和6年3月28日：再	第8条第1項

〔新：新任、再：再任〕

役員	(寄 附 行 為) 選 任 条 項	
理事	第7条第1項第1号	山脇美術専門学校の学校長。
	第7条第1項第2号	評議員のうちから、評議員会において選任した者3人。
	第7条第1項第3号	前2号の理事が選任した者2人
	第7条第1項第4号	学識経験者(学校長又は評議員である者を除く)のうち理事会において選任した者1人。
監事	第8条第1項	この法人の理事、教職員、又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

○評議員

	現員	定員	任期
評議員	15人	15人	4年

(令和6年3月31日 現在)

評議員	氏名 (敬称省略)	就任／再任年月日	選任区分
評議員	川上 信昭	令和3年4月1日：再	第26条第1項第1号
評議員	中沢しのぶ	令和3年4月1日：再	第26条第1項第2号
評議員	清水 裕子	令和4年4月1日：新	第26条第1項第2号
評議員	富 永 文	令和3年4月1日：再	第26条第1項第2号
評議員	須藤加代子	令和3年4月1日：再	第26条第1項第3号
評議員	山崎 和美	令和3年4月1日：再	第26条第1項第3号
評議員	松橋 恭子	令和3年4月1日：再	第26条第1項第3号

評議員	野上 孝枝	令和3年4月1日：新	第26条第1項第3号
評議員	清水カツ子	令和3年4月1日：再	第26条第1項第4号
評議員	伊藤 美恵	令和3年4月1日：再	第26条第1項第4号
評議員	越中谷直樹	令和3年4月1日：再	第26条第1項第4号
評議員	寺尾 繁美	令和3年4月1日：再	第26条第1項第5号
評議員	森 吉仁	令和3年4月1日：再	第26条第1項第5号
評議員	須田 栄二	令和3年4月1日：再	第26条第1項第5号
評議員	田島 雅子	令和3年4月1日：再	第26条第1項第5号

〔新：新任、再：再任〕

評議員	(寄 附 行 為) 選 任 条 項	
評議員	第26条第1項第1号	山脇美術専門学校の学校長。
	第26条第1項第2号	この法人の教職員で理事会において推薦された者のうちから評議員会において選任した者3人。
	第26条第1項第3号	この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上の者のうちから、理事会において選任した者4人。
	第26条第1項第4号	理事のうちから、理事の互選によって定められた者3人。
	第26条第1項第5号	学識経験者のうちから理事会において選任した者4人。

○教職員 令和6年3月31日現在 (単位 名)

教育職員				事務職員				技術職員			本務 教職員	本務・兼務 等全教職員
本務	パート	兼務	計	本務	嘱託	パート	計	本務	兼務	計		
10	1	60	71	7	3	1	11	0	0	0	17	82

6. 理事会・評議員会

当期中に開催いたしました、理事会・評議員会における審議事項・報告事項は、以下のとおりである。

○理事会

開催日	審 議 事 項	報 告 事 項
令和5年 4月26日	1. 山脇ビル構築の件	

令和5年 5月23日	1. 令和4年度事業実績報告の件 2. 令和4年度決算(案)及び監事監査報告の件	1. 令和5年度学生在籍者数 について 2. 教育改革検討委員会に ついて
令和5年 8月29日	1. 山脇ビル構築の件	
令和5年 9月22日	1. 山脇ビル構築の件	
令和5年 10月11日	1. 山脇ビル構築の件	
令和5年 12月14日	1. 山脇ビル構築の件	1. 令和5年度出願・合格者数 の状況及び令和5年度学 生在籍者・退学者数につ いて
令和6年 2月7日	1. 山脇ビル構築の件	
令和6年 2月27日	1. 令和5年度 補正予算(案)の件 2. 監事選任の件 3. 学則変更の件	1. 職業実践専門課程につい て 2. 令和6年度出願・合格者数 の状況及び令和5年度学 生在籍者・退学者数につ いて 3. 令和5年度 就職状況につ いて
令和6年 3月27日	1. 令和6年度事業計画(案)の件 2. 令和6年度当初予算(案)の件 3. 評議員選任の件	1. 職業実践専門課程の認定 について 2. 令和6年度出願・合格者 数の状況及び令和5年度 学生在籍者・退学者数に ついて 3. 令和5年度就職状況に ついて 4. 令和6年度年間スケジ ュールについて

○評議員会

開催日	審議事項	報告事項
令和5年 5月23日	1. 令和4年度事業実績報告の件 2. 令和4年度決算(案)及び監事監査報告の件	1. 令和5年度学生在籍者数について 2. 教育改革検討委員会について
令和6年 2月27日	1. 令和5年度 補正予算(案)の件 2. 監事選任の件 3. 学則変更の件	1. 職業実践専門課程について 2. 令和6年度出願・合格者の状況及び令和5年度学生在籍者・退学者数について 3. 令和5年度 就職状況について
令和6年 3月27日	1. 令和6年度事業計画(案)の件 2. 令和6年度当初予算(案)の件	1. 職業実践専門課程の認定について 2. 令和6年度出願・合格者数の状況及び令和5年度学生在籍者・退学者数について 3. 令和5年度就職状況について 4. 令和6年度年間スケジュールについて

Ⅱ. 事業の概要

1. 学校部門

(1) 全科共通

・学校行事

- ① 6月 研修旅行 全科で1泊2日旅行
- ② 7月 テーブルマナー 3年生対象
- ③ 8月 学生作品展
- ④ 9月 山脇祭
- ⑤ 10月 芸術鑑賞
- ⑥ 2月 卒業進級制作展

- ・コンペティション

コンペティションへの取り組みをより活発化した。

- ・教職員研修

教職員の指導力を高めるため、研修やセミナー等に参加した。

- ・職業実践専門課程

- ① 教員の実務研修

- ② 教育課程編成委員会

- ③ 企業との連携授業

※教職員研修と職業実践専門課程の実績報告は14pの(7)職業実践専門課程についての通り

(2) ビジュアルデザイン科

新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたため、一部就職講座を除く、通常授業をすべて対面で行った。グラフィックとWebを主として、パッケージ、写真、イラストレーション、動画、企画など、幅広い授業を行なった。

- ・1年生

初心者が一から基礎を身につけられるよう、アナログ技術を中心に、パソコン操作と座学をバランスよく取り入れた授業を行なった。各授業で、作品プレゼンテーションや講評会、レポートによる各自の振り返り等を行い、デザイナーに必要な基礎力とコミュニケーション力、言語力の向上をはかった。紙一枚のグラフィックを自分一人で仕上げることを目標にし、進級制作では、大判ポスターを企画制作して印刷所への入稿まで自分で行った。

- ・2年生

エディトリアル、パッケージ、Web、写真、動画基礎等を必修で学び、選択授業では各自の希望や適正に合わせて、ブランディング、タイポグラフィ、立体イラストなどを学び表現力を身につけた。就職活動用のポートフォリオ制作のため写真撮影やページレイアウトに力を入れるとともに、進級制作でWebポートフォリオに展開した。

- ・3年生

各自の適正に合わせてグラフィックかWebを選択し学びの主軸として、実戦的な学びを深めた。特にWebでは昨今の成長分野であるスマホサイトを中心に、就職後に役立つ最新のデザインノウハウやユーザーイン

ターフェースを学んだ。2年次に制作したWebポートフォリオを紙のポートフォリオへ再展開するとともに、志望企業に合わせてブラッシュアップし、週3回の研究制作（自習）の時間を使って、就職活動に力を入れた。卒業制作では将来像を明確にしつつ、各自テーマを定め、3年間の集大成となるデザイン制作を行なった。

・3学年共通

新型コロナウイルス感染症のため数年間自粛していた見学は、今年度は半数の授業で行う事ができ、視野を広げリサーチすることに役立った。職業実践専門課程の連携授業は、企業6社にご協力いただき、企画、イラストレーション、印刷、Web、グラフィックなどの講義や実技・演習を実施できた。

・学生対応

高校時に通学経験の少ない学生や、精神的な問題を抱え心療内科に通う学生も多く、カウンセラーや保護者にも協力いただいてサポートを行ったが、1年生4名、2年生2名の退学者が出てしまった。就職活動については、在学中の活動が消極的な学生もおり、3月末時点での内定者は希望者24人中17人であった。卒業後も引き続きサポートを行う。

・資格

- ・1年生 色彩検定3級 受験27名／合格25名
- ・2年生 色彩検定3級 受験3名／合格1名
色彩検定UC級 受験6名／合格5名
色彩検定2級 受験10名／合格5名
色彩検定1級 受験1名／合格1名

・コンペティション

- ・1年生 想いを伝えるカードデザイン大賞 審査員賞1名
YAMATO イラストレーションデザインコンペ 入選3名
- ・2年生 大阪府やおうえるかむコモンズ ロゴマーク 最優秀賞1名
YAMATO イラストレーションデザインコンペ
優秀賞1名、入選1名
- ・3年生 長野県岡谷市ゼロカーボンシティロゴマーク 優秀賞1名
株式会社バンダイ ガシャポンドリームコンテスト
審査員賞1名

(3) スペースデザイン科

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、対面授業のみを行った。新型コロナウイルス感染症の拡大以降、行事等の中止で学生間の交流の機会が減少したため、見学などで交流の機会を設けた。

美術や建築などの学習経験のない学生でも基礎から学び、専門知識と技術を持った設計・デザインを行うプロとして、社会性やコミュニケーション能力を有した人材を育てて社会へ送り出す。他校との差別化と入学後に自分にあった就職先を見つけられるように、建築からインテリアまで幅広く学ぶカリキュラムとし、各自の習得状況に応じた丁寧な授業を行った。職業実践専門課程取得のため、企業との連携授業を実施した。

・1年生

設計・デザインの基礎から学び、美術や建築未経験の学生でも、快適な住空間づくりのノウハウを身につけ住宅設計が行えるように指導すると共に、設計内容を伝えるための技術とコミュニケーション能力が養われる様に指導した。二級建築士受験のために必要な手描きの図面と共に PC による図面を学んだ。

・2年生

多世代住宅や店舗、ウィンドウディスプレイなど多様な空間の設計・デザインが行えるようにする。様々な空間の設計・デザイン課題に取り組む中で自分に合った仕事の方向を見出し、就職活動へと繋がる様に指導した。施主の様々な要望に対応する設計能力も各授業の中で養った。実践で求められる PC スキルの向上を図った。

・3年生

選択授業では、就職後の実践で必要な能力や施工するために必要な図面類の描き方を学んだ。デザインの仕事をする上で必要な社会状況を見据えた企画やビジネス展開と企画立案の方法を学んだ。就職希望者全員の就職が卒業前に決まった。正社員として長く勤務できるよう、各自の適性にあった就職先を見出せるようにサポートを行った。

・学生対応

健康面や精神面で問題を抱える学生は、出席率の低下や休学に至る可能性が高いため、カウンセラー、助手、保護者が連携し、出席率向上と休学中のサポートを行ったが、各学年1名ずつ、計3名の退学者が出た。

・資格

- ・ 1年生 色彩検定3級 受験11名／合格8名
色彩検定UC級 受験1名／合格1名
- ・ 2年生 商業施設士補 受験9名／合格8名
- ・ 3年生 商業施設士 受験8名／合格4名
色彩検定UCユニバーサルカラー級 受験7名／合格3名

・コンペティション

- ・ 1年生 キッチン空間アイデアコンテスト 入賞1名
- ・ 2年生 インテリアデザインコンペ 入賞1グループ
- ・ 3年生 アカリ・イマージュコンペ2023 入賞1名

(4) ジュエリーデザイン科

いつの時代も変わらない確たるジュエリー造形基礎と専門知識、社会性、人間性を兼ね備えた人材育成を行った。

企業との連携授業を取り入れ、学生の職業意識を高めた。グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたカリキュラムの中で、コミュニケーションスキルを磨いた。

・ 1年生

ジュエリーの造形、金工の基礎（切る、曲げる、折る、ロー付けなど）を学んだ。ジュエリーの金具の使用、石留め、日本の伝統彫金技法を学んだ手書き、画像制作ソフトでジュエリーを描写することを学んだ。七宝、ガラス、キャスト、蜜蝋の体験をした。

・ 2年生

ジュエリー造形、金工加工の精度を高める。非貴金属の加工、石留め（上級）、チェーンの手編み、ヨーロッパ伝統彫金、日本古来から伝わる象嵌技法、色上げ方法を学んだ。手書き、画像制作ソフトでの描写を学んだ。

・ 3年生

選択授業内で各自関心の高い分野を追求し、卒業制作として発表した。ゴム型を用いた鋳造、CADによる造形、七宝（上級）を体験した。

・ 特別講義・職業実践講座

- ・ 業界企業の現場見学を行った。
- ・ 業界で活躍する卒業生や伝統工芸士を招いて職業実践講座を行った。

- ・ジュエリーブランド、作家をクライアントに多く持つ弁護士を特別講師に招いて『知的財産権』についての特別講義を行った。
- ・学生対応

令和5年度も就職内定100%であった。90%の学生がジュエリー業界へ就職した。1年生で入学早々に退学1名。3年生で休学1名。健康面や精神面で問題を抱える学生は、カウンセラー、助手、講師、保護者がコミュニケーションを取りながら、進級・卒業に向け牽引している。
- ・資格
 - ・ジュエリーコーディネーター検定3級 受験13名／合格11名
 - ・ジュエリーコーディネーター検定2級 受験1名／合格1名
(在学中の合格は学科創設以来初)
 - ・ガス溶接技能士 受験14名／合格14名
- ・コンペティション
 - ・日本七宝作家協会展 佳作1名、入選1名
 - ・糸魚川翡翠ジュエリーアクセサリデザインコンテスト 優秀賞1名
 - ・日本ジュエリーアート展 入選7名
 - ・伝統工芸日本金工展 入選4名

(5) 学生募集対策について

① 奨学金

指定校推薦奨学金31万円を24名、一般奨学金10万円を21名、留学生奨学金10万円を1名に給付した。

② 高校訪問・高校ガイダンス

1都3県の高校を中心に、高校ガイダンスと高校訪問の訪問回数を併せて147回訪問した。

③ 入学者の状況

高校新卒者が41名、既卒者4名となった。

④ 入学者の認知媒体

ネットによる認知が30名、情報誌が5名、ガイダンスが3名、紹介が7名であった。

⑤ デザイン体験、学校説明会

体験に171名、説明会に82名の参加があった。(令和4年度 体験120名、説明会70名)

体験入学の参加者が出願する率は約90%であった。(令和4年度 30.5%)

(6) 就職について

就職指導については、1年生（27時間）、2年生（27時間）、3年生（15時間）の就職講座を実施した。パワーウェイブ、さんぽう両社の講師により、対面と新型コロナウイルス感染対策を経てスタンダードとなったオンラインを組み合わせた形で講座を実施した。3年間で、パソコンのビジネススキルから、業界・企業研究、自己分析、履歴書作成、模擬面接等を行った。また、卒業生懇談会、1・2年生を対象に外部講師による業界・職種説明会を実施した。さらに、希望者を対象として、就活用のメイクを実践で学ぶ「就活メイク講座」、就職状況の厳しいビジュアルデザイン科を対象とした「ポートフォリオ相談会」を開催した。

令和5年度の就職状況は、3pの③就職希望・内定者数の推移の通り。引き続き、学校として在校生と卒業生の就職支援を継続していく。

(7) 職業実践専門課程について

職業実践専門課程の認可取得に向けて、次のような体制整備および実績作りに取り組んだ結果、令和5年度における職業実践専門課程として、文部科学大臣より令和6年3月13日付けで認定された。

①外部企業の役職員ならびに本学教職員よりなる教育課程編成委員会を開催した。令和5年9月1日の教育課程編成委員会では、業界動向や企業の求める人材についての意見交換をし、来年度のカリキュラム・シラバスなどの改善策を中心に協議した。また、企業連携授業への取り組みなどについても協議した。令和6年2月26日の教育課程編成委員会では企業連携の在り方や、次年度の授業内容やシラバスの具体的な改善点について協議した。

②「職業教育に係る連携協定書」を19社と取り交わし、連携授業の中で実践的な職業教育を実施した。

③「生成AIとクリエイティブに関するセミナー」「インテリアトークセッションセミナー（空間アイデンティティとは?）」「金属工芸の保存・伝承のための研修会」「アサーティブコミュニケーション研修」などのセミナー研修に参加し、教職員研修を充実させた。

(8) 設備について

○ 学校部門の主な工事関係（20万円以上）

	工事名	工事費（円）
1	照明のLED化更新	11,462,979
2	セントラル空調用蓄熱水槽改修工事 蓄熱槽部分補修工事	3,597,000

3	学生男子トイレ排水管更新工事	3,300,000
4	セントラル空調用蓄熱水槽P-3ポンプ更新工事	1,115,070
5	学校エレベータ油圧シリンダーグランド部パッキン更新	345,400
6	高圧受電設備部品更新	240,090

3. 今後の課題

- (1) 教育改革ならびに事業改善の検討については、第三者からのご意見、ご指導をいただき、将来の法人の姿を前向きに検討していく。特に、事業改善（事業部門）の根幹である山脇ビル構築について、早急且つ慎重に検討していく。
- (2) 職業実践専門課程の認定を受けて、内容の充実を図りながら、広報の活用方法を検討していく。
- (3) 今年度は10名の退学者があった。退学者の増加は抑えられたが、さらに退学者を減少させるための策を講じる。
- (4) 教職員の福利厚生施設（グランヴェール強羅）、教育的な資料保管施設（麴町三番町マンション、蓼科東急リゾートヴィラ）の利用頻度の低下ならびに年間出費額が相当な負担になっているため、この不動産物件の利用見直しもしくは売却について継続検討する。

Ⅲ. 財務の概要

財務の概要については別紙参照。

以上